

令和三年 謹賀新年



福岡県労福協
理事長 藤田 桂三

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、それぞれの「思い」「決意」を抱き新年をお迎えのことと思います。旧年中は福岡県労福協活動に対しまして、温かいご支援・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年は、私たちが経験したことがないコロナ禍での諸活動、4年連続となる自然災害への対応など、働く仲間や生活者にとって、大変厳しい一年となりました。コロナ禍においては、社会生活基盤を支えていくために日夜奮闘されているエッセンシャルワーカーをはじめとする働く仲間の皆さん、災害被災地でご尽力されているすべての関係者の皆様に深く敬意を表します。

福岡県労福協として、今後も「働く仲間や生活者、現場に寄り添い、息の長い支援活動」を続けていくことをお誓いいたします。

さて、少子超高齢・人口減少社会に突入し、労働力不足への対応、将来の税収や社会保障制度のあり方、地域社会の持続可能性など大きな課題が山積しています。また、コロナ感染症対策においては、未だ収束のめどが立たない中、貧困や格差の拡大がさらに深刻化しており、私たちは今、未来を左右する大きな岐路に立たされています。

こうした厳しい状況にあるからこそ、労働者の福祉向上を目的とする労福協の使命とその役割の発揮が求められています。活動の原点である、人と人との繋がりを大切に、「思いやり、支えあい、助け合う」組織として、本年もできるかぎりの取り組みを進めます。

福岡県労福協は、すべての働く仲間・生活者の幸せと豊かさ、誰一人取り残さない包摂的で持続可能な社会をめざし活動します。連帯・協同の力で「安心・共生の福祉社会」を実現するために、今後ともに手を携え頑張りましょう。

結びに、会員・ご家族の皆様のご健勝とご活躍、今後の労福協活動への積極的なご参画をお願いし、新年のご挨拶といたします。



労働者福祉中央協議会
会長 神津 里季生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、異例の事態が続いた1年でした。中央労福協では、三次にわたり省庁・政党に対して緊急要請を行いました。また、労働者自主福祉の取り組みとして生活・就労応援基金（ろうふくエール基金）を設置し、地方労福協が地域で共感を広げ新たな活動にチャレンジするための後押しを行いました。さらに、実開催が叶わなかった全国研究集会では、コロナ禍・大規模災害に強い地域づくりをテーマとした動画を配信し、地域コミュニティのあり方について考察を深めました。あらゆる活動が制限されるなか、「労福協の2030年ビジョン」に改めて確信を持ちながら、歩みを進めてまいりました。これもひとえに、加盟団体をはじめとする関係者の皆様のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

しかし、日本では依然として多くの人が仕事や住まいを失い、様々な困難を抱えています。とりわけ社会的に弱い立場にいる方々ほど深刻な打撃を受け、格差や社会の分断がより拡大しつつあります。様々な時限的な特例措置が講じられた公的セーフティネットについても、その脆弱性について根本的な解決には至っていません。貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる持続可能な社会を実現するために、今こそ私たちが真価を発揮する時です。

そのためには、労働運動と労働者福祉事業が「ともに運動する主体」として関係を強化し、消費者運動、NPO・市民運動などとの連携を深め、共助の輪を広げることにより、多様で重層的なセーフティネットを日本社会に張り巡らし、貧困や格差を是正していくことが必要です。

中央労福協は、このポストコロナ時代のスタートの年に、「つながり、寄りそい、支え合う」ことを基軸に、誰もが「助けて」と言える社会を目指します。そのために新しい手法を柔軟に取り入れ、「今こそ労働者福祉運動の出番」との気概をもって取り組んでいきます。



福岡県知事
小川 洋

新年あけましておめでとうございます。

福岡県労働者福祉協議会の皆さまには、日ごろから労働者福祉の向上にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界中でまん延し、私たちの生活や経済に大きな影響を与えています。県では、皆さまの生活を支えるため、生活福祉資金の特例貸付や緊急短期雇用創出事業を実施するとともに、事業者への資金繰り支援など、さまざまな取り組みを行ってきました。コロナ禍の中、地方への移住・定住の意識の高まり、企業の本社・研究開発機能の分散化の動きが見られます。この機を捉え、その受け皿として選ばれるよう、魅力を一層高め、福岡県を元気にしていきたいと考えています。

そのためにも、住み慣れたところで働く、長く元気に暮らす、お子さんを安心して産み育てることができる地域社会づくりにこれまで以上に力を入れてまいります。これは、これまで進めてきた地方創生の取り組みと変わりありません。

コロナとの闘いは、これからも続きます。社会全体で感染防止を図りながら、今年の干支の丑年らしく、一步一步着実に社会経済活動のレベルを上げてまいります。ご支援、ご理解を賜りますようお願いいたします。

新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。



九州労働金庫福岡県本部
本部長 西村 芳樹

新年明けましておめでとうございます。日頃よりろうきん運動に対してご支援ご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みは今年になっても続き、以前のような生活様式に戻ることはまだまだ先の事と思われます。私たち労金を含む労福協を構成する団体は「集まること」「話し合うこと」「協力し合うこと」の基本的な行動が抑制され、新たな生活様式を基に運動を展開していく時期が来ています。

大変な時期ではありますが、はたらく人にとってもっとも身近な金融機関として、会員との連携を深めて、組合員のニーズに合わせ、組合員の生活設計・生活改善・生活防衛のとりくみを推進し、本年も「会員・組合員のお役に立つろうきんへ」「すべてのはたらく人のお役に立つろうきんへ」「地域社会のお役に立つろうきんへ」の3つのとりくみをもとに、会員と協働した「しあわせ創造運動」を積極的に展開し、福祉金融機関としての社会貢献活動を展開していきます。

2021年が会員、組合員およびご家族のみなさん、そしてすべてのはたらく人にとって良い年になることを祈念申し上げて年頭のご挨拶とさせていただきます。



こくみん共済 coop
福岡推進本部
本部長 佐田 正二

新年明けましておめでとうございます。

組合員・協力団体の皆さまには健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、こくみん共済 coop の諸活動に対しまして格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

新しい年2021年は、コロナ禍との向き合いを続けるなか、ワクチンの開発が現実味を帯びるなど明るい兆しもあります。また、開催延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックも開催に向けての準備が行われています。

こくみん共済 coop でも、New-Zetwork (2018年度～2021年度中期経営政策) の総仕上げと位置づける4年目を迎えます。これまでの3年間は、お役立ち発想と共創活動にもとづく新しい事業と運動を展開し、共済の「たすけあいの仕組み」を通じて組合員の「もしも」を支える活動に取り組んでまいりました。

今後も、組合員・協力団体の皆さまとの「つながり」を大切に、信頼・選択していただける「こくみん共済 coop」を目指して、役職員一丸となって努力を続けてまいりますので、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。組合員・協力団体の皆さまにとって、本年が素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



福岡県生活協同組合連合会
会長理事 堤 新吾

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、福岡県生協連並びに会員生協の事業・活動へのご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、世界は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい今もなお、人々の健康と暮らし、経済を脅かしています。また、地球温暖化による気候変動や水資源の枯渇、プラスチックごみの海洋汚染などの環境問題、貧困や飢餓の問題、ジェンダー（性）に基づく偏見や不平等の問題など、今なおさまざまな問題を抱えています。福岡県生協連は、「SDGs（持続可能な開発目標）」の実現に向け、協同組合活動・協同組合間連携により、地域の課題解決に向けて取り組んでいます。

東日本大震災から10年が経とうとしています。復興は道半ばです。昨年は、7月の豪雨、台風9号、台風10号による甚大な災害が広い地域で発生しました。こうした度重なる災害に対し、全国の生協は、地域の諸団体と連携し、被災地、被災者に伴走しながら継続した支援活動に取り組んでいます。生協は、「助け合いの組織」として、地域社会を支え地域コミュニティに参加する取り組みを、コロナ禍の中で工夫しながら、今後も積極的に強めてまいります。

この一年が皆様にとって実り多い年になりますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



北九州総合労働会館
理事長 浅野 斉二

新年あけましておめでとうございます。日頃より、北九州総合労働会館（通称：真鶴会館）の事業運営に対して事業団体、労働団体をはじめ、会員の皆さま方に、ご支援とご協力いただいていますことに感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、3月から6月までカルチャー講座を休講し、貸し会議室のキャンセルも相次ぐなど、非常に厳しい会館運営となりました。カルチャー講座再開後の利用状況については順調に推移し、会議室の利用も徐々にもどり、現在では厳しい運営の中にあっても安定的な運営になっています。

当館の1、2階に入居いただいていた九州労働金庫「北九州東支店」が昨年の2月に移転をして、現在も空いている状況であり、引き続き入居いただける方を募集している状況です。また、5階に入居していました大衆演劇の「宝劇場」が昨年9月に退去をしました。「宝劇場」が入居する前は大ホールとしてご利用いただいていたので、現在はリニューアルして引き続き大ホールとしてご利用いただいています。

当館も40年の節目を向かえ、今後も厳しい会館運営が想定されることから、引き続き安定的な会館運営となるように努めてまいります。今年も、入館いただいております皆さまをはじめ、勤労者・市民の皆さまが安心して快適にご利用いただけますよう役職員一同、最大の努力をして参る所存です。本年も真鶴会館に対するご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



編集 藤吉 眞二